

令和6年7月13日

関係機関

各位 様

第63回社会教育研究全国（東北福島）集会

現地実行委員会委員長 千葉悦子

（公印省略）

第63回社会教育研究全国（東北福島）集会のご案内

平素より、社会教育研究の推進およびその実践の展開につきまして、御理解、御協力をいただき厚く御礼申し上げます。「社会教育研究全国集会」は毎年、各地での開催を継続している民間の研究集会であり、社会教育関係職員・学校教育関係者・市民・学生・大学研究者等が集い、社会教育の発展を期し多くの社会教育実践の交流と学習を推進しています。

第63回社会教育研究全国集会は、東北福島で開催します。東北では、1995年に「山形・蔵王集会」、東日本大震災の4年後となる2015年に「東北盛岡集会」（岩手）、さらには2021年の「南三陸集会」（宮城）に続き、2004年の「猪苗代集会」を含めると5度目となり、福島では20年ぶりの開催となります。今回も、東北6県の大学関係者等による「東北の社会教育研究集会」の歴史に支えられながら、多くの関係者と手を握り、「東北福島集会」が福島で福島大学を会場として下記のように開催されます。

つきましては、多くの方々にご参加いただき、東北福島のこれまでの地域復興と生涯学習・社会教育実践の蓄積を共有しそこから多くを学び、東北福島の未来創造へと結びつけていきたいと思っております。

ここに、「第63回社会教育研究全国（東北福島）集会」のご案内を申し上げます。関係者の皆様にぜひともご紹介いただきたく、ご協力のほどお願い申し上げます。

記

- 1 全国集会開催日時 2024（令和6）年 8月24日（土）、25日（日）
- 2 開催場所 国立大学法人福島大学（福島市金谷川1番地）
- 3 集会内容 「第63回社会教育研究全国（東北福島）集会」開催要項等参照

以上

連絡先

第63回社会教育研究全国（東北福島）集会現地実行委員会事務局

中田スウラ（tfgnchi@gmail.com）

〒960-8151 福島市金谷川1 福島大学人間発達文化学類天野和彦研究室気付

「第63回社会教育研究推進全国（東北福島）集会 現地実行委員会事務局」

第63回 社会教育研究全国集会 (東北福島集会)



人をつなぎ 地域を拓き 未来をつくる
—対話・学び・共同の力で分断を越えて—

2024
8月24日(土)
8月25日(日)

会場：福島大学
(福島市金谷川1番地)

●参加費

集会参加費 3,000 円
(学生・院生 1,000 円、
高校生以下無料)

* 対面参加・オンライン参加共
通です。(集会資料集兼報告書
代を含む)

* 全体交流会(飲食付き)は
事前申込み制です。当日申込み
はできません。

別途会費(一般 4,500 円
学生・院生 3,000 円)が必要
です。

* 8月25日(日)昼食弁当(お茶
付き)800 円 要事前申込み

プログラム

- 1 開会集会 8月24日(土)13:30~17:30 福島大学L棟L4 講義室
 - ▶ 開会セレモニー、基調提案、来賓あいさつ
 - ▶ 講演テーマ「東日本大震災から13年を経た福島からの発信」
 - (1) ミニ講演 1「崩壊と創世の狭間で」
青木 淑子さん(NPO 法人富岡町3・11を語る会代表)
 - (2) ミニ講演 2「震災から13年を経て、これからの地域を考える」
丹波 史紀さん(立命館大学産業社会学部教授、元福島大学行政社会学類准教授)
 - ▶ 現地からの発信—東北福島の社会教育実践に学ぶ(リレートーク)
- 2 全体交流会 8月24日(土)18:00~20:00 大学生協レストラン
※ 飲食あり・会費制。皆様の情報交換や交流の場です。
- 3 分科会 8月25日(日) 9:30~16:30 福島大学S棟講義室
※ 一部分科会は日時・会場が異なります。またオンラインを併用する分科会もあります。
- 4 全国集会バトンタッチセレモニー
8月25日(日)16:45~17:15 福島大学L棟L4 講義室
- 5 「日韓交流」特別分科会
 - ▶ テーマ:日本の「地域」と韓国の「マウル共同体」—それぞれの自治と学習、政策
 - (1) 前半:日本からの報告
8月23日(金)15:30~18:00 福島県男女共生センター
 - (2) 「日韓交流」懇親会 8月25日(日) 19:00~福島駅周辺を予定
※ 事前申込み必要 会費5,500~6,000 程度(当日支払い) 定員60名
 - (3) 後半:韓国からの報告
8月26日(月) 9:30~12:30 コラッセふくしま
※ 特別分科会は、前半・後半どちらかの参加も可能です。
- 6 閉会集会 9月22日(日)14:00~17:00(予定) オンライン方式
※ 今集会の成果を共有し、次回(第64回)全国集会につながる内容の学習会を開催します。詳しい内容や参加方法などは、集会を申し込まれた方に追ってご案内します。
※ 閉会集会のみ参加希望の方の申込方法は、事務局までお問い合わせください。

【主催】第63回社会教育研究全国集会(東北福島集会)実行委員会・社会教育推進全国協議会

【後援】国立大学法人福島大学

福島県* 福島県教育委員会* 福島市教育委員会* 郡山市教育委員会* いわき市教育委員会*
会津若松市教育委員会* 二本松市教育委員会* 富岡町教育委員会* 川内村教育委員会* (*:予定)

東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故から 13 年が経過します。地域社会には未だ諸課題が山積し、一方、震災に立ち向かう実践から学ぶべきことが多くあることもまた事実です。そうした大震災後の蓄積と経験をあらためて振り返るとともに、次につなぐ実践を掘り起こし、それらを共通の財産とすることが求められている今、この集会を通して東北・福島の実践と全国各地の実践を交流させ、これからの社会教育と地域の展望を拓いていきましょう。皆さんのご参加をお待ちしております。

分科会	1 子育てにおける子どもの主体性をどう担保するか —子どもの権利条約批准30年に向けて—	2 子育て&親育ち分科会～“子育てのHow to”と“ともに学ぶ”を考える	3 若者の自立と社会参画	4 地域福祉分科会
	5 障がいをもつ人の生涯にわたる学習保障	6 ジェンダー平等な社会をつくる女性の学習	7 平和のための学習・文化活動分科会	8 多文化共生・人権尊重をめざす学習
	9 自治体改革と住民の学び	10 食と健康と農業一農をめぐる学びと協同	11 自治と共同を育む住民主体の学びを創る	12 暮らしを拓く公民館事業 公民館本来の役割とは何か
	13 社会教育機関としての図書館の存在意義を考える	14 震災に向き合う福島の博物館と地域活動	15 社会教育職員がつながる分科会	16 地域文化の創造と社会教育
	17 地域と学校	18 浜通りで学び考える福島のいま	* 8月25日(日)を中心に開催 9:30～16:30 福島大学 S棟	

● 参加申込 ●

- ▶ 社全協ホームページ内の集会参加申込フォームに必要事項を入力し、お申し込みください。
社全協ホームページアドレス <http://japse.main.jp/>
(右のQRコードを読み取ると申込フォームに直接つながります)
- ▶ 次に参加費を下記の郵便振替口座に別途お振込みください。
ゆうちょ銀行のATM、ゆうちょダイレクト、郵便振替用紙等でお願ひします。
記号番号 00140-5-148793 口座名義 社会教育研究全国集会実行委員会
※ ゆうちょ銀行以外の金融機関から送金する場合
ゆうちょ銀行 〇一九(ゼロイチキユウ)店 当座 0148793
- ▶ オンライン参加の方には、参加費の振込確認後、メールアドレス宛に集会参加用の Zoom ミーティングIDとパスワードをお送りします(8月20日前後を予定)。
- ▶ 参加申込フォームでの申込ができない方は、集会の問い合わせ先まで、Eメール・FAX・電話にてご連絡ください。
- ▶ 8月24日の全体交流会および8月25日の昼食弁当は、必ず事前にお申込みのうえ所定の代金をお支払いください。集会当日の申込みはできません。
- ▶ 申込〆切日 8月14日(水)メール必着。参加費等も同日振込締切(厳守)です。
※ 参加に際して特別な配慮が必要となる場合には、お気軽に事務局までご相談ください。



お
問
い
合
せ

社会教育推進全国協議会事務局(毎週水曜日 13時00分～16時00分)
〒162-0818 東京都新宿区築地町19番地 小野ビル2階 電話・FAX 03-3235-4143
E-mail: japse@nifty.com ホームページ: <http://japse.main.jp/>
集会の詳細および最新の情報は集会ホームページ・社全協フェイスブックをご覧ください。
<http://japse.main.jp/syukai/>
<https://www.facebook.com/japse.main/>

● 現地実行委員会 福島大学人間発達文化学類 天野和彦研究室気付現地実行委員会
〒960-1296 福島市金谷川1番地 電話 024-548-8121(天野研究室)
現地事務局担当: 中田スウラ、天野和彦 E-mail: tfgenchi@gmail.com



福島大学 L4教室

ものがたりニュース No.9

2024.8.10 発行



集会テーマの懸垂幕

手形もよウの『歓迎看板』できました 東北福島の実行委員一同、笑顔でお待ちしております！

本番まであと3週間となった8月3日、集会会場となる福島大学において、第9回現地実行委員会が開かれました。地域では夏のイベントまっさかりのなかではありましたが、県内外から約20人の方々にご出席いただきました。暑い中ありがとうございました。4月に一度会場の下見はしてはいましたが、今回は集会プログラムを頭に入れて、実行委員それぞれが自らの動線の確認を行い、集会のイメージづくりができたと感じています。全国各地からのご参加をお待ちしております。



集会のメイン会場となるL4(えるよん)教室のステージで、完成した手づくりの歓迎看板を手にする実行委員のみなさん
～ふち取りしてあるカラフルな「手形もよう」は実行委員一人ひとりの歓迎の証(あかし)です～

◆お迎え準備すすむ！

この日は、ワークの時間がたっぷり用意され、実行委員を識別する手づくりリボンの作成、手形もよう看板(上の写真)の最終調整から完成へ、また分科会標示の作成など、本番が近くなっていることを身体で感じる作業を行いました。わたしたちの熱い想いが全国のみなさんに届きますように。

Photo gallery



実行委員の手づくりリボン



手形もよう看板の最終調整



実行委員が見守るなか完成へ

第63回社会教育研究全国集会(東北福島集会)現地実行委員会だより

◆1時間かけて会場の確認をおこないました

この日は、開会に先立って、会場となる福島大学の構内を確認しました。受付となるL4(えるよん)教室ロビー、交流会会場となる大学生協レストラン、分科会会場となるS棟(えすとう)、控室を予定している行政政策学類棟などを、約1時間かけて歩きました。トイレやエレベーターの位置、机いすの配置など、細かな部分も含めてチェックいたしました。なかでも、大学生協レストランでは、たくさんの学生さんが利用されていて、夏休みでありながらも、大学にいることを実感しました。



食堂入口で中田さんから説明



食堂は学生さんで賑わっています

集会テーマソング「物語」

Capo:2

G D G C D7 G

入道雲 吹きそよぐ風

C D7 G C D7 G

空をこがす 夕焼けも

G D G C D7 G

君のふるさと ぼくのふるさと

C D7 G Em C D7 G

そしてこの街にも 続いている

B7 Em

見つめたひとみ確かめて、

C B7

このぬくもり確かめて

Em Am D7 G

物語の生まれた この大地から

Am D7 G Em

手をつないだ ぼくら

C D7 G

未来(あした)を呼ぶよ

夏のおい 溶けてゆく影

またたきひかる 星々も

君のふるさと ぼくのふるさと

そしてこの街にも 続いている

つないだ生命(いのち) 確かめて

この時間(とき)を確かめて

※物語の生まれた この大地から

新しい物語が つづられていく※

※～※くりかえし



◆千葉実行委員長「集会在夢に出てきます・・・」

会場確認ののち、実行委員会にもどり、はじめに千葉悦子実行委員長がご挨拶がありました。「集會もいよいよ迫ってまいりました。今日と18日、あと1回の実行委員会となりました。暑い中たいへんですが、心を熱く燃やして集會を迎えましょう。

今ほど、構内を回ってイメージをつくりましたが、これから一人ひとりが何をやるのか確認しながら進めていきましょう。私も最近、集會のことを夢でよく見ます。たくさんの人をお迎えして皆さんとともに集會を成功させましょう。



○分科会 news(8/9 現在)

⑭博物館分科会〈直前情報〉まもなく8/17に富岡町で開催

(※8/9 配信・同分科会案内チラシから転載)

本分科会は、現代的課題に取り組む地域博物館実践のあり方を検討し、今年で半世紀を迎えます。

東日本大震災以降、福島では住民主体でさまざまな葛藤を経ながら地域の災害伝承への取り組みが進められており、震災伝承に関わる施設もつくり、地域との協働が芽生えています。一方、被災地では他の地域における震災の経験の風化が進むことへの危機感があります。地域社会を回復していく協働と相互学習の実践と地域博物館が果たすべき役割を、現地の現在の取り組みからともに学びあい、各地の歴史的経験を風化させず現在と未来にどのように活かしていけるかを語りあいます。ぜひご参加ください！

8月17日(土)プログラム

○日時:2024年8月17日(土)10:40~16:00【対面】

○会場:とみおかアーカイブ・ミュージアム(〒979-1151 福島県双葉郡富岡町大字本岡字王塚 760-1)

富岡町文化交流センター 学びの森(〒979-1151 福島県双葉郡富岡町大字本岡字王塚 622-1)

◇ふりかえりの会:2024年9月2日(月)19:00~21:00【オンライン】

10:40~12:00 とみおかアーカイブ・ミュージアム見学

12:00~13:00 昼食

13:00~16:00 事例発表とディスカッション(会場:富岡町文化交流センター 学びの森)

モデレーター:筑波 匡介さん(福島県立博物館 主任学芸員)

門馬 健さん(富岡町教育委員会 生涯学習課 業務係長/学芸員)「原子力災害被災地と博物館」

平山 勉さん(一般社団法人 双葉郡未来会議 代表理事)「民間で取り組んだ災害伝承・情報発信」

塚本 麻衣子さん(福島県立博物館 主任学芸員)「東日本大震災後の博物館活動」

青砥 和希さん(一般社団法人 未来の準備室 理事長)「震災の記憶を探究することはできるか

—福島県における伝承教育の実践・課題・可能性」

グループワーク(参加者相互の意見交換)

○編集後記

現地実行委員会だより第9号をお届けします。この原稿を書いているときに宮崎県で大きな地震がありました。被災された方にお見舞いを申し上げます。さて、集會まであとわずかとなり、考えることも、やることもたくさんありますが、深呼吸して、落ち着いて一つ一つクリアしていきたいと思えます。当日、皆さんにお会いできることを楽しみにしております。



ものがたりニュース No.12

2024.8.25 発行



現地企画「本でおもてなし」

北から南から、福の島へ 450 人超が集う 人をつなぎ 地域を拓き 未来をつくる —対話・学び・共同の力で分断を越えて—

第63回社会教育研究全国集会(東北福島集会) 開会



連日 30℃を超えるふくしまの「ほんとうの空のもと、福島大学を会場に今後の社会教育の在り方を考える第 63 回社会教育研究全国集会(東北福島集会)が始まりました。

全国各地から(オンライン含め)450 名を超える社会教育関係者が熱い思いをもって集まり、会場は外気温以上に熱気に包まれました。



開会は戸倉、本多の女性コンビによる総合司会の発声から始まり、オープニングとして第 63 回全国集会(東北福島集会)テーマソング「物語」を作詞・作曲した天野和彦さんのギターと曲のリードで Jack あまの応援団のもと全員で熱唱しました。皆さんお一人お一人の「物語」をぜひおきかせください!

また、川内村に 400 年続く無形文化財である伝統舞踏「三匹獅子舞」が披露されました。村では年 3 回祭礼で奉納され、今日は4、5 年生 3 名の児童に舞っていただきました。



次に主催者である社会教育推進全国協議会(社全協)の姉崎洋一から、「学習と対話と話し合いの中で現場の実践の中に解決の糸口がある」、「対話と共同の力で分断を越えられるよう」、「討議を通じて新しい知見を開きたい」など、実りの大きい集会にしていきたい意気込みと、この間の関係者のご努力への感謝の言葉が述べられました。

続いて、来賓の福島大学の三浦浩喜学長からは、福島が支援する、支援されるネットワークの中心となるよう、また今集会から人の育ちの物語が始まることを期待する旨の挨拶をいただきました。

朴英道(パク・ヨンド)韓国平生教育総連合会会長からは、今回 14 名で参加し、昨日の特別分科会日韓交流の感想や、本大会のテーマに感動し 2 日間共に学び交流したいという想い、日韓が共通の課題を考え、危機を乗り越えていくことの大切さなどが述べられました(写真は左から姉崎委員長、三浦学長、パク・ヨンド会長)

続いて、基調提案として、千葉悦子実行委員長と社全協常任委員の古里貴士さんから、テーマの設定にあたり、実行委員会を通して議論しまとめたことが述べられ、基調提案を紹介しました。福島県での開催は 2004 年以来 20 年ぶりで「東北の社会教育研究集会」の歴史に支えられながら開催できたこと及び現実を切り拓くための理論と実践を共同的に創造する場を皆さんで創り出していきたいと述べました。社会教育にさまざまな思いをもって集う方々にとって、人と人がつながる、つなげる貴重な機会であり、皆さんとともに交流し、たくさん学んでいきたい。(矢吹稔・高橋英子)

ミニ講演「東日本大震災から13年を経た福島からの発信」から

■NPO 法人富岡町 3.11 を語る会代表青木淑子さんからは「崩壊と創生の狭間で」をテーマに話をいただきました。青木さんは、「人の世に起きたことは人の言葉で語られなければならない」、伝承活動は元気な地域をつくる、未来につながる活動であり、一緒に考え行動する仲間が増えることを願い、語り部を続けていること。大震災当時の生々しい現状、その後の地域コミュニティの分断についてや復興に向けた活動などについて話されました。「原子力災害を乗り越えるのは人である」、「いろんな考えを『違う』ではなく、寄り添い続けていく勇気を持ち続けたい」との言葉が特に印象的でした。

■元福島大学准教授で立命館大学産業社会学部教授丹波史紀さんからは「震災から13年を経て、これからの地域を考える」をテーマに、原子力災害による震災後の家族の分断の状況など被災者調査について紹介され、また災害による国内避難民(IDPs)としての被災者が急増している現状にあることに危機感を示されました。また、被災地で「尊厳をもって当たり前の生活ができること、再開することが必要である」、被災地各地で地域の暮らしを取り戻す復興に向けた努力が続いているが、「ひとりひとり、ひとつひとつの小さな物語こそ輝きがある」、災害時の経験を日常の地域力向上につなげることなどを話されました。(矢吹稔)

現地からの発信(リレートーク)「東北福島社会教育実践に学ぶ」

1つ目は、「人のつながりが大事」と題して、飯舘村第12行政区長、いいたて結い農園代表理事の長正増夫さんからは、原発事故及びそれに伴う賠償金により家族、親戚、職場、地縁など様々なコミュニティが分断されたリアルな実情の報告がありました。「これらの分断を乗り越えるためには人のつながりを大切に、できることをやるのが大事。長い暗闇を見るときは、先を見ず1歩1歩進んでいく必要がある。」というお話から、地道な公民館活動の重要性を再認識しました。

2つ目は、「福島県が失いつつあるものと獲得しつつあるもの」と題して、福島大学食農学類准教授の林薫平さんからは、福島原発が位置する浜通り地域の漁業再開の歩みについて報告がありました。マスコミ報道では、ALPS 処理水が海洋放出されるなど、大きな枠組みしか報道されないという課題も報告され、「現場ではどのような議論がされているか、実際に足を運んで漁師と対話してほしい」というお話から、対話の重要性を再認識しました。

3つ目は、「地区公民館のつながりを生かして」と題して、いわき市立鹿島公民館館長の福田雅子さんからは、震災後の公民館講座の実践について報告がありました。防災の拠点として防災講座に取り組んでいること、公民館という場所にこだわらず、地域全体を公民館ととらえて講座を実施していることなど、実践的な内容でした。「公民館は小さな物語をつむぐ場としてもっともっと公民館を活用していかないといけない」というお話から、公民館はいろいろなことを試せる場であることを学びました。

4つ目は、二本松市立杉田小学校の合唱団を母体に平成27年に結成された「福島しあわせ運べるように合唱団」から、「あの日から～守られ、出会い、歌い、そして未来へ～」と題して、震災当時の様子や将来の夢などが合唱とともに力強く語られました(写真)。震災時に幼かった子、産まれていなかった子も、合唱団での活動を通して震災当時の出来事や復興の歩みを学び、自らの言葉で発信する姿に会場は感動の渦に包まれ、発表後は本日一番の拍手に包まれました。震災を知らない子どもであっても、震災を学ぶことで、震災を自分事としてとらえることができ、震災を語り継いでいけることを体感しました。(菅野貴裕)



福島の見どころ③ 「円盤餃子」



福島市を代表するご当地グルメ「円盤餃子」が、文化庁の令和3年度食文化機構醸成事業「100年フード」に認定されました。福島市にはかつて旧満州から引き揚げてきた人が多くおり、旧満州で作り方を覚えた、あるいは味わった餃子を思い出しながら、戦後に屋台や飲食店で餃子を提供したことが福島の餃子文化の始まりといわれています。一度にたくさんの餃子を焼くため、フライパンの形に合わせて餃子を並べて焼き、そのまま皿にひっくり返した形はまさに「円盤」。円盤餃子の特徴は、野菜が多めで小ぶりで食べやすい。皮はお店によって薄かったりちょっと厚めだったり。福島駅から徒歩圏内にたくさんお店があるので、「ふくしま餃子めぐりマップ」(ふくしま餃子の会発行)を参考に、お好みの円盤餃子をぜひご賞味ください。(高橋英子)

◆編集後記 編集委員会に強力な助っ人現る！昨年度の関西集会で広報班長をおつとめになった山田龍太郎さんがノウハウを携えてお手伝いに駆けつけてくださいましたありがとうございます！広報ブース8月25日はS棟S-13となります。さらに広報班には佐藤朱美さんが加わりました！

■お知らせ「ものがたりニュース」のバックナンバーは、Google ドライブでご覧になることができます。
https://drive.google.com/drive/folders/1u0s3elUUCmcZGd4hLyZd8LMQlIp4Zrce?usp=drive_link